

第1回 保安トップ懇談会（11月28日開催）の概要について

2012年11月29日
石油化学工業協会

最近の保安事故発生状況に鑑み、各社トップによる意見交換と相互啓発の場として第1回 保安トップ懇談会を開催致しましたので以下その概要をご報告します。

なお、これは当協会としては初めての試みであり、これを契機として各社が保安・安全対策に一層真剣に取り組むことを期待しております。

記

1. 日 時：2012年11月28日（水）15：00－17：00
2. 場 所：化学団体共用会議室（住友不動産六甲ビル 2階A会議室）
3. 出席者：
小林 喜光　　(株)三菱ケミカルホールディングス 社 長
藤井 シュン　丸善石油化学(株) 社 長
十倉 雅和　　住友化学(株) 社 長
田中 稔一　　三井化学(株) 社 長
西川 直規　　サンアロマー(株) 社 長
渡邊 宏　　経済産業省 大臣官房審議官（製造産業局担当）
宮本 昭彦　　経済産業省 製造産業局化学課長
高梨 圭介　　石油化学工業協会 専務理事
（モデレーター）
田村 昌三　　東京大学名誉教授

4. 懇談概要：

はじめに、小林会長から、「最近の事故発生に鑑み、今回、トップが意見交換し、相互啓発を行う場として保安トップ懇談会を企画し、田村昌三東大名誉教授にモデレーターをお願いした。忌憚のないご発言をお願いしたい」との挨拶に引き続き、田村名誉教授の議事進行にて5社のトップによる保安に係わる意見交換が行われた。

様々な発言があったが、主なものは次のとおり。

- ・ 問題点としては、非定常作業での事故が多い、現場での応用がきかなくなっている、原理原則・Know-Whyが理解されていない、プロセス全体の把握・理解が不十分

- ・ 地味な保安の取り組みに光を当てサポートすることが大事
- ・ プラントのシステムの充実と、常に現場が考えて対応することの両方が必要
- ・ トップは常に本気で安全についてのメッセージを間断なく発信し続けることが必要
- ・ 「安全は全てに優先する」と言うことが形骸化しないように、トップが繰り返し刺激を与えることが必要

また、政府に対しては、本質的な保安対策・向上と規制緩和が両立する方向での検討を望むとの指摘が行われた。

最後に、田村名誉教授から本日のまとめとして「トップの強いリーダーシップのもとに保安対策を一層強化していくことを本日の合意とする」ことの提案が行われ、全員の賛成のもと終了となった。

5. その他:第2回 保安トップ懇談会は2012年12月5日(水)開催の予定です。

以 上

《本件に関するお問い合わせ先》
石油化学工業協会 総務部 (広報担当)
TEL : 03-3297-2019